

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

記述, 論述, 選択

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問数は例年通り3題で問題文の分量も昨年並みであり、論述問題の指定行数も昨年の19行程度から21~23行程度とあまり変化がなかったことから、全体としての分量は昨年並みであった。さらに、昨年に引き続き今年も難度の高い考察問題が多く、難易度も昨年並みであったと考えられる。

出題の特徴

出題の多くは考察問題であるが、生物学用語の穴埋めや文章選択型の知識問題も出題される。例年、指定行数が1~3行程度の論述問題が多いが、昨年に続いて指定行数が5行の長い論述問題が出題された。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

知識のみで解答できる問題が減少し、論理的思考力を問う問題が増加している。

<大問分析>

| 番号 | 出題形式 | 出題分野・テーマ | 範囲 | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) | 難易度 |
|-----|----------------|-----------------------------|---------------------|--|-----|
| 第1問 | 記述 論述 選択 | 発生 タンパク質 遺伝子 | 生物 | H 表1-1(d)から、Zタンパク質がP2細胞とP4細胞にも作用していることがわかるが、この作用は「表1-1(a)のような穴細胞、壁細胞、表皮細胞の分化パターン」の決定に直接は関係していないと考えられる。 | やや難 |
| 第2問 | 記述 論述 選択 | 光合成 タンパク質 酵素 植物の反応 | 生物 基礎 ・ 生物 | B(ア) Iのリード文の内容から、貧栄養の土壌では、カルビン・ベンソン回路の酵素タンパク質と呼吸速度のみに影響が現れると考えられる。 F 最新の研究ではさまざまな知見が得られているが、教科書に記載のある内容で判断すればよいだろう。 | 標準 |
| 第3問 | 記述 論述 選択 | 進化 個体群 | 生物 | E 解答例以外にもいくつか解答が考えられる。 | 標準 |

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・教科書レベルの基本的な知識を身につけ、これを正確に論述できるように練習を重ねよう。
- ・普段の学習から、丸暗記ではなく論理的に考える癖をつけよう。
- ・過去問などの演習を通して、東大型の問題に慣れておこう。
- ・試験時間に対して問題量が膨大なので、問題演習を重ねて問題文の読解や解答作成の速度を上げるとともに、自分が解ける問題から解き始める習慣を身につけよう。
- ・生物学の最新のトピックスに関心をもち、生物学的な内容を扱ったニュースなどにも目を通しておこう。